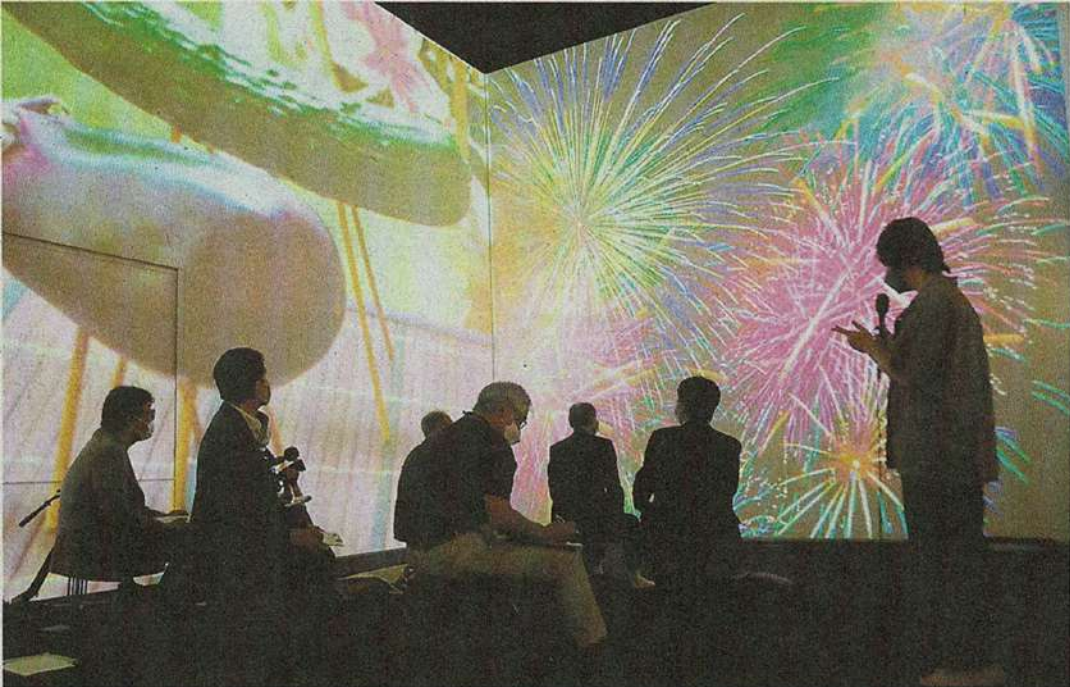


# デジタルで彩る「四季」

仮想空間の演出競う  
崇城大でコンテスト

インターネット上の仮想空間を演出する技術を競うコンテストが28日、熊本市西区の崇城大であり、学生たちが最新のデジタル技術

を駆使して「四季」をテーマに「没入感」の高い空間を作り上げた。ネット上で交流できる3次元の仮想空間「メタバ



崇城大の学生たちが四季をテーマに仮想空間を演出したコンテスト  
＝熊本市西区

ス」が注目される中、崇城大IoT・AIセンターが、仮想空間を扱う技術向上を目的に初めて開いた。情報学部を中心に28チーム計約200人が出場した。

センターは床が縦11・3m、横6・4mの長方形で、天井までの高さが7・2mの「メタ空間スタジオ」を用意。学生たちは専用機材を使って四方の壁に花見や風鈴、花火、紅葉、除夜の鐘など、四季を感じる写真や映像を投影し、演出の技術を競った。大学教員や銀行員、行政職員ら7人がストリー性などを審査した。

「熊本地震と四季」をテーマにした作品で上位に入った情報学部1年の永井健斗さんは「夏をイメージするために崩れた墓の写真を使うなど、地震と四季を結び付ける工夫が難しかった」と話していた。

(白杵大介)